

# 手と手と手

岡山発 国際貢献

潮風がそよぐコンテナヤードに少し古びた自転車車が百台並んだ。一台一台に小さなシールが張り付けられていく。文字はポルトガル語。「松山から平和の願いをこめて」

三月二十六日。愛媛県松山港。松山市の放置自転車車をコンテナに詰める作業が行われた。目的地はアフリカのモザンビーク共和国。市民約六十人が参加した。「私たちはもっと自転車を大切にしなければね。松山大二年高石由香(三〇)は言った。

放置自転車はモザンビークで武器と交換される。この活動もまた、ESD(持続可能な開発のための教育)に位置づけられている。

長い内戦で武器がまん延したモザンビークでは一九九五年から、現地NGO(非政府組織)などが自転車や農具を

提供して武装解除を進める「銃を鋸(ノコギリ)へプロジェクト」を展開。各国の支援で、これまでに約七十三万丁が回収され、一部は芸術作品に生まれ変わっている。

## 大量廃棄

「市民がアフリカの平和構



築にかかわれるなんて素晴らしいでしょう。NPO法人・えひめグローバルネットワーク(松山市)代表の竹内よし子(四八)の「銃鋸」に対する思いは熱い。

愛媛県生まれ。高校卒業後、地元で就職したが、二十二歳

の時、「だれかの役に立ちたい」と渡英。五年間、ボランティア経験を積んだ。帰国後、外務省の外郭団体に入り、国際協力の世界へ踏み込んだ。

九八年、郷里でグローバルネットワークを設立。国際協力文獻資料から「銃

鋸」を見つけた。調べてみると、平地が多い松山市では自転車の利用者が多い一方で、放置も大量に生んでいた。市が撤去し廃棄するものだけで年間約三千台。



放置自転車1台1台にメッセージ・シールを張るボランティアら＝3月、松山港

市役所に掛け合ってみると、撤去自転車の中にリサイクルに分別されながら「デザインが古くて売れない」などの理由で、廃棄に回されていた一群があった。

## 自ら変わる

放置自転車には、シールがもう一枚、張られた。「Think Globally Act Locally Change Person

ally(地球規模で考え、地域で行動し、自ら変わる)」の対策で手いっぱいだった吉田に、竹内は真顔で「銃鋸も放置自転車もなくなりたい」と言った。吉田には「想像もできない言葉だった。竹内の熱意が通じて二〇〇〇年、放置自転車のモザンビークへの送付が始まり、〇三年に続き今回が三回目。吉田ら松山市職員は毎回、協力を欠かさない。また市内の放置自転車が減ったというデータはないが、竹内らを支援する企業

竹内は言う。「銃鋸は、モザンビークで平和を選ぶ市民を育てる。松山市民も平和を共感し、大量生産・消費の問題に気付いて、ライフスタイルを変えることができる。もちろん、私だって変わり続けている」

〇三年六月、愛媛県で開かれた「ESDの十年」推進会議(本部・東京、ESD-J)の地域会議を通じ、竹内はESDと出合った。現在、ESD-J理事。「私たちは地域に根差した国際協力を通してESDを実践しています」

## 市民を育てる

# 放置自転車で銃なくす

(敬称略)

ご意見をお寄せください。〒700-8734、山陽新聞「国際貢献取材班」。ファクス(086-245-5296)、メール(kokusai@sanyo.oni.co.jp)。